



薬剤師は、入院患者さんが他の病院でもらってきた「持参薬」と、当院で処方する薬との相互作用を確認した上で、腎機能や肝機能を示す血液検査の結果などもみて、出せる薬や飲み方を調整していきます。

痛み止めのロキソニンは肝機能、ある抗生物質は腎機能が悪いと使えません。吸収を阻害する飲み合わせもあり、例えば下剤の酸化マグネシウム

⑤8 服薬指導(薬剤科)

は、抗生物質の種類によつては二時間以上、空けて飲むよう指導します。内服薬と点滴の組み合わせのほか、種々の注射剤の混合にも支障がないか注意します。

薬と相性が悪く服用中に食べてはいけないうものもあります。有名なのは血栓症を防ぐワーファリンの服用中は、ビタミンKが含まれる納豆や青汁が禁忌。高血圧や狭心症に使うカルシウム拮抗剤は、グレープフルーツの



患者に服薬指導する薬剤師＝名古屋市中区の中日病院で

薬と相性悪い食べ物も

摂取を控えましょう。か管方法、飲み忘れた時のんきつ類の中には支障な対処法などを直接説明し、く摂取できるものもあります。糖尿病の方には、ので、かかりつけ薬局でブドウ糖を持ち歩くといった低血糖への対処法な相談してみましよう。 入院患者さんには、薬ども伝えます。 は、グレープフルーツの作用や内容の説明、保(守田美奈子薬剤師・談)



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎中日病院＝052(961)2491